| 授業科目名 | ファシリテーションの基礎 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 三田地　真実 | 担当形態 | 単独 |
| 実務内容<br>（実務家教員の場合） | | | |

「学位授与の方針」との関係

「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎の三つの約束を実現するためには、様々な背景を持った人々が相互に理解し合っていくためには、「話し合いの場」が不可欠である。現実には、この話し合いがうまく機能せず、争いに発展してしまっている事例は枚挙に暇が無い。本授業では、このような共生社会の構築のために必須の「話し合いの場」を本当に意味あるものにするために必要なファシリテーションの技術を身に付けることを目的としている。微細なコミュニケーションの分析の仕方から、大きな意味での場づくりの技法まで、実りある「話し合い」ができるファシリテーターとなることが本授業の狙いである。

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、「意味ある場づくり」の技法としての「ファシリテーション」をテーマに取り扱う。

本授業を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通りである。

（１）場づくりのそもそもの意味が理解できる　（「意味」「意義」を考えること）

（２）コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）

（３）場づくりの基本的な技法を獲得できる（準備、実施、フォローアップの各段階において）

（４）実際にワークショップ、あるいはワークショップ型の話し合いを企画・実施できる

授業の概要

本授業では、人が何らかの目的で集う「場」（ワークショップ、授業、会議、研修など様々な場面）を参加している人にとっていかに意味あるものにするために、「ファシリテーター」は具体的にどのような考え方や技能を身に付けて実際に行動していけばよいのかの基礎について、「ファシリテーションの考え方とノウハウを学び、実際に「場づくり」のポイント、代表的な技法について習得し、それぞれの領域に応用できるようにすることを目的とする。

本授業はアクティブ・ラーニング型で実施するので、授業運営からも学んでもらえるようにデザインされている。

授業計画

第１回：場づくりの意味を考える－ファシリテーションが必要とされる分野―

第２回：ファシリテーションと教育の３つの方法

第３回：ファシリテーターの心得（マインド）（１）根拠を考える、プロセスを見る

第４回：ファシリテーターの心得（マインド）（２）安全安心な場、中立であること、信頼すること

第５回：ファシリテーションの基礎力（１）観察力

第６回：ファシリテーションの基礎力（２）コミュニケーション能力

第７回：ファシリテーションの基礎力（３）行動の原理（応用行動分析学基礎）

第８回：ファシリテーション準備の段階（１）時間のデザイン
（プログラムデザイン曼荼羅図）

第９回：ファシリテーション準備の段階（２）空間のデザイン（物理的な場づくり）
第１０回：ファシリテーション本番の段階（１）当日の事前準備
第１１回：ファシリテーション本番の段階（２）チェックインからチェックアウトまで
第１２回：ファシリテーションフォローアップの段階
第１３回：ファシリテーション実践編（１）会議、ワークショップ例
第１４回：ファシリテーション実践編（２）授業・研修例
第１５回：授業のまとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容
スクーリングでは、ファシリテーションを実現するための基礎力から本番までの具体的なステップ　まで事例を紹介しながら学ぶ。プレゼンテーション（発表）やグループディスカッションを中心に行う。
（第１回から第１５回全ての内容を横断的に含む。）

教科書
（１）三田地 真実（２０１３）『ファシリテーター行動指南書』ナカニシヤ出版
（２）中野 民夫・三田地 真実 編著（２０１６）『ファシリテーションで大学が変わる：大学編アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには』ナカニシヤ出版

参考文献
（１）中野民夫（2003）『ファシリテーション革命～参加型場づくりの技法～』岩波アクティブ新書
（２）中野民夫（2000）『ワークショップ～新しい学びと創造の場～』岩波新書
（３）三田地真実（2007）『特別支援教育「連携づくり」ファシリテーション』金子書房
（４）三田地真実 （2014）『ライフヒストリー曼荼羅ワークショップ』の理論基盤構築に向けて－本ワークショップにおける「ライフヒストリー」の意味とツールとしての『曼荼羅図』（研究ノート），『共生科学研究』（星槎大学紀要）第９巻，162-174
（５）三田地真実（2019）『ライフヒストリー曼荼羅ワークショップ－他者を理解するということ－』，『三田哲学』（慶應義塾大学）第 142 巻，187-219
（６）三田地真実・佐藤智彦・岡田徹太郎（2022）対面授業のビデオ記録を活用した省察―経済学大人数授業アクティブ・ラーニング型授業での実践―，『名古屋高等教育研究』第 22 号，245-160

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。